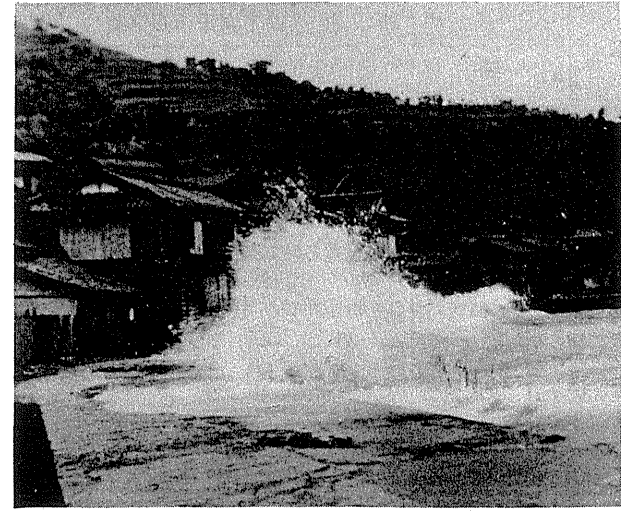


第六章 自然災害

第一節 台風

自然災害のうちで主をなすものは台風災害で、被害も多い。以下主なものをあげる。



台風15号(昭和29.9.26)により岩壁に打ち上げる波浪(小網代海岸)

寛文六年(一六六六) 大暴風雨により、家・田畑の被害多し
享保七年(一七二二) 暴風雨により多くの被害がでる。

弘化三年(一八四六) 七月九日大暴風雨、家屋・田畑・舟・被害多し、午年の大風という。(伊予風水害史)

明治一七年(一八八四) 八月二五日大暴風雨、波浪による被害多く、家屋・舟・護岸・農作物・被害甚大(愛媛県誌稿)

明治二〇年(一八八七) 大暴風雨、家屋・舟多く流失
昭和一八年(一九四三) 七月二一―二四日記録的な暴風雨(愛

媛県史概説) 八〇〇ミリを越す未曾有の豪雨となり、堤防を溢れ至る所で決壊した。家屋の倒壊・埋没・流失・浸水・田畑の流失・惨状を極めた。日土では喜木川がはんらんし役場が流され、五反田でも元井橋から神山の方に流れ、清滝橋流失、千丈川も溢れ新開町・木多町、おかされ橋を流し、駅前からの昭和通りは一面の沼となり、舟で往来した由、古町・

広瀬も軒先まで浸水、明治橋をこす水は橋の袂をえぐり、他の橋ごとごとく流失した。一方波浪による海岸の被害甚しく、道路が決壊し、荒磯と化し各所で寸断された。

昭和二〇年(一九四五) 九月一五日―一八日(台風一六号) 出石寺・飯之山他、杉・松の大木多く吹き倒され、各地に被害でる。

昭和二九年(一九五四) 九月二五日―二六日(台風一五号) 高潮大黒町一帯を河のごとく流れ、ト口箱によるせきがでる。床すれすれの浸水になる。新町・広瀬方面でも床下浸水した。他被害多くでる。

第二節 干ばつ

柑橘の生産が多い本市では、干ばつが台風に次いで大きな被害を出している。代表的干ばつを次にあげる。

昭和九年(一九三四) 七月二七日―八月三〇日雨量は、七月八五・〇ミリ、八月一七・四ミリで大干ばつとなり、農作物に大きな被害がでる。六〇年来の大干ばつであった。

昭和四二年(一九六七) 七月一三日―一〇月三日雨量は七月一九二・七ミリ、八月一二・〇ミリ、九月一〇・〇ミリで井戸は枯れ、水道時間給水、農家は朝早くから灌水の水を運搬したが、枯死するのを食い止める程度で、大きい被害が出る。

第三節 雪害

干ばつ

本市特産の夏柑・温州みかんには長期の雪が大敵で被害も大きい。主なものは次の通りである。
大正六年(一九一七) 前の年の一二月から四月まで積もっては消え、又積もるの雪に閉じ込められ、薪もなくなる。春桑が、だめになり、春蚕の掃き立てに困った。(日土・千丈)

昭和九年(一九三四)春、豪雪があり、日土で馬車の上六〇センチの積雪が一日にあり、寒く、川の水が凍ってしまふ。

昭和三五年(一九六〇)一二月から一月四日。昭和三八年(一九六三)一月九日から二七日 柑橘に被害が多くてた。

第四節 地震

宝永四年(一七〇七)津波があり、穴井浦より上まで上るとある。(穴井天満宮古記)

昭和二一年(一九四六)一二月二一日 南海大地震 大きく震動し柱時計止まる。一名死亡